

件名	堺市生物多様性メールマガジン vol.47
配信日	3月1日(金)
内容	<p>【生物多様性コラム】</p> <p>冬芽について、堺自然ふれあいの森館長の木下さんに教えていただきました。</p> <p>*****</p> <p>堺自然ふれあいの森では、コナラやタカノツメ等の落葉樹の葉が落ち、園路や広場では落ち葉の絨毯が広がっています。</p> <p>従来なら、園内の至る所で落ち葉あそびが出来るのですが、今年は台風 21 号やナラ枯れの影響により、枝が折れたり枯れてしまったりしたコナラの木が多いため、例年よりも落ち葉の量は少なくなっています。</p> <p>そんな冬の森では、春を待つ生きもの達の姿を観察することができます。</p> <p>私のお勧めは冬芽です。冬芽は落葉樹が秋から冬にかけて葉を落とし、休眠状態で冬を過ごしたあと、春に再び芽吹き、活動を開始するために準備されたもので、冬芽の中に葉やつぼみが入っています。冬芽の形は、樹種によって様々です。</p> <p>ヤブムラサキは、葉も冬芽もふわふわで、虫めがねで見ると、細かい毛で覆われているのを観察することができます。ネジキは、赤い帽子をかぶった小人みたいに見えます。</p> <p>森を歩きながら、お気に入りの冬芽を探してみるのはいかがでしょうか。</p>